

第 1156 圖

まつかぜさう科



みかん
 一名 こみかん・きしうみかん 古名 たちばな
Citrus deliciosa Tenore.
 最も舊キ昔ヨリ暖地ニ栽培セラルル常緑喬木ニシテ、幹ハ巨大ト成リテ久シキ経年ノ者少ナカラズ、枝ハ繁ク葉ハ密ナリ。高サ5m内外ニ達ス。枝條ハ瘦長、葉ハ互生シ、小形ニシテ長サ5-7cm許、卵狀披針形或ハ長卵形ニシテ全縁或ハ微細波狀鋸齒アリ。葉柄ニハ小翼アリテ上端ニ節ヲ具ヘ、葉片ト節合スルコト他ノ柑橘類ト同ジ。六月頃、白花ヲ開キ香氣ヲ放ツ。五萼片ハ小形綠色ニシテ宿存ス。花瓣五。雄蕊ハ二十内外。後テ黄赤色扁圓ノ漿果ヲ結ブ、徑凡3-4cm許、外果皮離レ易ク、其表面平滑ニシテ光澤アリ。中軸ハ中空ナリ。種子ハ小形ニシテ尖ル。變品少ナカラズ。食用トシテ賞美スベキ價値アレドモ現今うんしうみかんニ壓倒セラレ世人ノ之ヲ願ル者鮮ナシ。惟フニ本品ハ最も長キ時代ニ互リテ世人ノ寵ヲ專ラニセン蜜柑ナリシコトヲ想像シ得ベシ、是レ蓋シ昔ノたちばナノ系統ヲ引キシ者ナラン。

第 1157 圖

まつかぜさう科



うんしうみかん
Citrus Unshiu Marcov.
 日本ニ於テ生ジタル品種ニシテ今日ハ我邦中部南部ノ暖地ニ廣ク栽植セラルル常緑灌木。幹ノ高サ3m許、枝ニハ刺ナシ。葉ハ橢圓形ニシテ長サ7-10cm許、先端稍尖リ、略全邊ナリ。葉脈兩面ニ著シク、葉柄ニハ翼ナク上端ニ節ヲ具フ。初夏、梢上葉腋ニ多數ノ白色小花ヲ着ク。五萼、五花瓣、多雄蕊、一雌蕊アリ。子房ハ多室、果實ハ扁圓形ニシテ大形、直徑5-7.5cm、外皮離レ易ク、薄ク、鮮橙黄色ヲ呈ス。通常種子ヲ缺キ、肉質極メテ密、多液甘味。樹ハ耐寒耐病性甚ダ強ク、果實ハ早熟ニシテ貯藏ニ適ス。故ニ我國蜜柑類ノ最タリ。和名ハ温州蜜柑ノ意ナレドモ、蓋シ温州ノ地トハ何等關係ハ無ク單ニ其名ヲ冒セシモノニ過ギズ、而シテ從來稱スルうじゅきつ一名うんじうきつ(温州橘)ハ之レト全ク別物ナリ。温州ハ支那浙江省ノ南方ニ位スル瀕海ノ地ニシテ古來柑橘ニ名アル處ナリ。

第 1158 圖

まつかぜさう科



くねんぼ (橘)
Citrus nobilis Lour.
 印度支那ノ原産ニシテ暖地ニ栽植スル常緑灌木。高サ3m許ニ達ス。葉ハ互生シ、みかんノ葉ニ似テ稍大ナリ、全長10cm内外、橢圓形或ハ長橢圓形ヲ成シ先端稍尖ル。初夏、枝梢ニ白色花ヲ着ク。香氣高シ。五萼片、五花瓣、多雄蕊、一雌蕊アリ。果實ハ秋ニ黄熟シ、みかんニ比スルニ外皮厚ク、果肉能ク離レ難ク、表面ニ凹凸アリ。大サ6cm許ニ至リ、佳香ト甘味ヲ有ス。從來 C. nobilis Lour. ノ學名ヲ普通ノみかんニ適用セシハ誤ナリ。和名ヲ九年母ト書ケリト雖モ其意分明ナラズ、琉球産ノみかんニクねんぼアリ其呼音相通ズルガ如シ、然シ種類ハ全ク別ナリ、而シテ此ノくねんぼハ果シテ琉球ノ固有名乎或ハくねんぼノ内地名ノ舊ク同島ハ傳ハリシモノ乎。漢名 香橙(誤用)

なつみかん

Citrus Natsudaidai Hayata.

暖地ニ栽培セラルル常緑灌木。高サ3m許ニシテ枝ハ廣ク擴ガル。葉ハ橢圓形ニシテ先端鈍頭、質厚ク、腺點ヲ密布ス。葉柄ニ翼アリテ翼ハ葉柄ノ根本ニ向テ細マル。葉邊ニハ淺ク小鋸齒ヲ有ス。葉ノ全長10cm餘、幅4cm餘アリ。初夏、梢葉腋ニ白色花ヲ着ケ香氣甚ダシ。花ハ長サ15mm内外ニシテ五萼片ハ下部融合シテ皿狀ト成リ、五花瓣ハ稍々質厚シ。多數ノ雄蕊及ビ長キ花柱ヲ有スル子房ヲ有ス。果實ハ大形ニシテ扁圓形、長サ8cm、横徑10-15cm許、皮厚クシテ疣多シ。貯藏ニ適シ、生食ス、味酸シ。又「マルマレード」(果糖)トシテ賞用セラレ、皮ハ砂糖漬トス。和名ハ夏蜜柑ノ意ニシテ此果秋ニ熟スト雖モ長ク樹上ニ在リ、翌夏ニ至テ食セラルルヲ以テ此名アリ、夏みかんノ名舊ク在リシガ其品ハ果シテ現時ノ者ト同ジキ乎否乎。

第 1159 圖

まつかぜさう科



やまとたちばな

誤稱 たちばな

Citrus Tachibana Tanaka.

(=C. Aurantium var. Tachibana Makino.)

中國西邊・四國・九州・紀州ノ海岸近キ山地ニ稀ニ自生スル本邦固有ノ常緑小喬木、高サ2-4m。枝極密ニシテ綠色無毛、葉腋ニ刺ヲ生ジ氣味ノ者ハ長大強剛ナリ。葉ハ互生、橢圓狀披針形、長サ3-6cm、先端漸次尖リ末端微ニ凹入シ波狀ノ低鈍鋸齒ヲ具ヘ葉底ハ銳形、革質、深綠色、滑澤ナリ。葉柄短ク、翼無ク、葉片ト節合ス。六月頃概ネ頂生シテ白花ヲ開ク。萼片五、小形ニシテ綠色、宿存性。五花瓣ハ長橢圓形ヲ呈ス。果實ハ扁球形、徑2.5-3cm、冬ニ入りテ黄熟ス。果皮薄ク剝離シ易ク、表面ニ凹點多ク、ゆずノ香氣アリ。瓢囊六-八箇、液汁酸クシテ殆ド食ニ堪ヘズ、囊ニ比シテ大ナル種子一二ヲ藏ス。京都紫宸殿ノ「右近の橘」ハ即チ本種ノ培養品種ニ屬シ、果實ハ更ニ大ナリ。普通ニ本種ヲたちばなト稱スレドモ非ナリ、元來たちばナハ食用蜜柑ノ古代名ニシテ多分其種ハ紀州みかん即チこみかん様ノ者ナリシナラント想像ス。從來此たちばナニ橘ノ字ヲ充テシハ誤ナリ。又たちばナノ語原ハ始メテ之レヲ外國ニ索メテ我邦ニ入レシ田道間守ノ名ニ基ク、之レヲ立テタル花ノ義トスルハ不可ナリ。

第 1160 圖

まつかぜさう科



ざぼん (朱欖)

Citrus grandis Osbeck.

(=C. decumana L.)

印度支那附近ノ原産ト考ヘラレ、暖地ニ多く栽植セラルル常緑樹ナリ。高サ3m餘ニ達シ、概形他ノみかん類ニ似タレドモ其葉闊大ナリ。葉柄ノ翼モ亦大ナリ。初夏、梢葉間ニ白色ノ大ナル花ヲ開キ、大ナル花序ヲ成ス。果實ハ多期黄熟シ、人頭大ニ達スル大ナル圓形果ニシテ徑17cm餘ニ至リ、外皮厚ク、肉ハ締リ、果汁少シ。種子ハ大形ニシテ扁平、多數ナリ。味甘酸ニシテ生食スルニ適シ、又砂糖漬トシテ珍重セラル。通常内部ノ紅紫色ノ者ヲうちむらさき、白色ノ者ヲざぼんト稱ス。又特殊ノ洋梨形ノ者ヲぶんたん(文旦)ト稱ス。和名ざぼんハ葡萄牙語ノさんぼあ(Zamboa)ヨリ來ル。今日支那ニテハ之レヲ柚ト云フ。

第 1161 圖

まつかぜさう科

